

“ビザなし”交流とは？

～意外と知らない北方領土～

札幌市立羊丘中学校 高橋吾一

北方四島との「ビザなし交流」。ニュースなどでもよく聞く言葉だ。ご存じの通り、目的は日本人と北方四島在住のロシア人が相互に理解を深め、北方領土問題解決のための環境づくりを行うこと。しかしなぜ、この事業の呼び名に“ビザなし”が頭につくのだろうか。ビザがなくても交流できるような雰囲気をつくるのがねらいなのだろうか。いや、実はビザがあってはいけない理由があるのである。

この事業の正式名称は、「北方四島交流事業」。1992年から始まるが、1989年に日本人がビジネスなどの目的で、ソ連（当時）のビザ発給を受けて北方四島へ入域していることが判明した。これに対し日本政府は、ロシアのビザを受けて北方四島に入域するということは、ロシアの行政権に服する行為であり、ロシアの北方四島領有を認めることになるとして、北方四島にロシアのビザで入域しないよう国民への協力を呼びかけた。そのため、ビザの有無が問題となり、“ビザなし”交流と呼ばれるようになるのである。

現在、ビザなし交流を除くと、日本人が北方四島を問題なく訪問するには、ロシアのビザを取得しなければならない。その後、稚内または新千歳、あるいは函館からサハリンに渡り、ユジノサハリンスクで北方四島への入境許可証を取得し、空路または海路でアクセスすることになる。日本政府は、日本国民に対して自粛を要請しているが法的強制力は存在しないため、北方四島のロシア企業との取引・技術支援や開発のため、多くの日本人ビ

ジネスマンや技術者がロシアのビザを取得し、北方四島に渡航している。

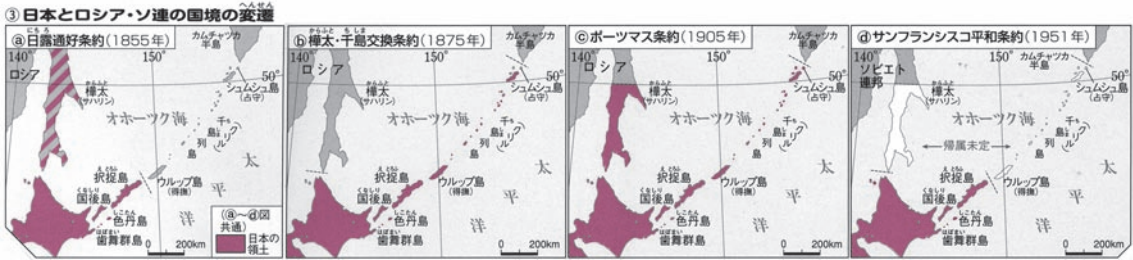
以上が“ビザなし”交流の所以だが、では、次の点についてはご存じだろうか。

1. なぜ、日露通好条約では、樺太は日露雑居となったのか？
2. 樺太・千島交換条約は、等価交換だったのか？
3. なぜ、ポーツマス条約で設けられた南樺太の境界は、北緯50度なのか？
4. なぜ、現在の地図には、南樺太と千島（クリル）列島は白く表記されているのか？

以下、平成24年度用『中学校社会科地図』p.125～126の「③日本とロシア・ソ連の国境の変遷」を使って、考察していきたい。

1. なぜ、日露通好条約では、樺太は日露雑居となったのか？

1853年8月、ペリー来航に歩を合わせるように、プチャーチンが軍艦4隻を率いて長崎に来航。国交と樺太・千島における国境画定を求めた。ロシア側は「樺太はあくまでもロシア領」と主張し、「樺太は古来から日本領だが、現状からみて北緯50度を境界とすることが妥当である」という日本側の主張と対立した。1855年、日露通好条約が締結され、千島は択捉島以南は日本、ウルップ島以北はロシア領となったが、樺太は日露雑居と定められた。結局日本はロシアに押し切られる形となり、これ以後、ロシアは樺太南部への進出を一層強めることになる。しかし、日本の幕



平成24年度用『中学校社会科地図』 p.125～126

府は崩壊寸前で樺太にまで手を回す余力はなかった。日露雑居の状況下で、ロシアは樺太への影響を強めていくのである。ちなみに、1860年にはロシアは清に、アロー戦争仲介の代償だとして北京条約において沿海州を割譲させる。

2. 樺太・千島交換条約は、等価交換だったのか？

1875年、発足間もない明治政府は、日露雑居地であった樺太を放棄し千島と交換する。1856年にクリミア戦争が終結すると、ロシアの樺太開発が本格化し、日露の紛争が頻発するようになったからである。ここで注目したいのは、日本が樺太と交換した領土である。国後島と択捉島は日本領であったので、ウルップ島以北の千島列島がそれに当たる。単純に南樺太と交換したと考えると、その面積や領土の価値から、日本とロシアの力関係を感じずにはいられない。

3. なぜ、ポーツマス条約で設けられた南樺太の境界は、北緯50度なのか？

1905年、日露戦争の勝利によって南樺太は日本領となる。これは、幕末以来日本が主張してきた北緯50度を境とする樺太の分有がようやく実現したということである。ところで幕府は、なぜ北緯50度を国境線と考えたのだろうか。幕末当時、アイヌ民族が居住していたのがこの付近までであったからだ。日本やロシア帝国の到達以前は、南部にアイヌ、中部にウイльта、北部にニヴフなどの少数民族が先住していたのである。

4. なぜ、現在の地図には、南樺太と千島（クリル）列島は白く表記されているのか？

1951年のサンフランシスコ平和条約で、日本は、朝鮮、台湾、樺太、千島列島に関する請求権を放棄した。しかし、樺太、千島列島に関しては問題点が二つある。一つ目は、日本は請求権を放棄したが、これらの帰属先は決められていないこと。二つ目は、千島列島の範囲が明確ではなくなってしまったことである。この会議のなかで吉田茂全権は、歯舞群島、色丹島が日本本土の一部を構成するものであることはもちろん、国後、択捉両島が昔から日本固有の領土であるという留保発言を行ったが、出席各国からは何らの異議も質問もでなかった。つまり、放棄した千島列島には、北方領土四島は含まれない。以上のことから、国の領有が決まっていない地域として、南樺太とウルップ島以北の千島列島が地図では白く表記されているのである。

以上、現在のビザなし交流を含めて、「日本とロシア・ソ連の国境の変遷」を見ながら北方領土について考察してきた。しかしここで、最後に問いかけたい。

樺太や千島列島は、日本人やロシア人が元来、住んでいた地域なのか？

領土問題は、ある地域がどの国家の領域に属するかをめぐって、国家間での争いが起こることである。しかし、国家と国家の狭間に翻弄された人たちにも、私達は目を向ける必要があるのではないだろうか。